

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 1 日現在

機関番号：34312

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520275

研究課題名（和文） スコットランド啓蒙の時代の古都エディンバラにおける銅版画肖像画

研究課題名（英文） Etching Portraits by John Kay of Edinburgh in the Age of Scottish Enlightenment

研究代表者

服部 昭郎（HATTORI AKIO）

京都ノートルダム女子・大学人間文化学部・教授

研究者番号：30238026

研究成果の概要（和文）：18 世紀から 19 世紀にかけて、スコットランドの古都エディンバラでは様々な画家たちによって銅（あるいは石）版画による肖像画が活発に描かれた。歴史に名を残した人々は言うに及ばず、名も無き市井の人々も肖像画に多く描かれており、それらはスコットランド啓蒙の時代を経て近代化が進む古都エディンバラに暮らした人々の実像を後世に伝えるユニークな歴史資料となっている。

研究成果として平成 23 年度末に『古都エディンバラ畸人伝 ジョン・ケイが描いたスコットランド啓蒙の時代』（昭和堂）を出版した。

研究成果の概要（英文）：John Kay, and other two artists, produced many etching portraits in Edinburgh during the age of Scottish Enlightenment. Those pieces of etchings could be thought, unfortunately without any acknowledgement ever since, as a unique record of the period, Edinburgh's Golden Age.

I published, as an outcome of this research, John Kay in Edinburgh (Showado Publishing Co.) in 2012

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：スコットランド、エディンバラ、スコットランド啓蒙、銅版画、ジョン・ケイ、ベンジャミン・クロンビー、ウォルター・ギーキー、古都

1. 研究開始当初の背景

ジョン・ケイはスコットランド啓蒙の時代に古都エディンバラで活動した銅版画家である。彼の描き残したエディンバラの人々の姿によって今日我々は啓蒙の時代の世相の一端を垣間みることができる。その意味でケ

イの銅版画による肖像画群は、芸術としての評価とは別に、一級の歴史資料と考えられる。しかし、日本国内は言うにおよばず、今日地元エディンバラにおいてもケイの存在はほとんど人々に知られていないのが実情である。そのひとつの理由が、ケイの作品を鑑賞

する機会が少ないことが挙げられる。19世紀の前半に本としてまとめて出版されたケイの作品群は、その後銅版の廃棄によって再刷が不可能となり、人々の目に届きにくい状態になってすでに長い時間が経過している。

先にもふれたように絵画作品としてはその評価が分かれるところであるが、啓蒙の時代の市井の人々の真の姿を見ることの出来る歴史資料として、散逸した銅版画の蒐集や、古書として残る『ケイ銅版画作品集』(*A Series of Original Portraits and Caricature Etchings by Late John Kay, Miniature Painter, Edinburgh, 1937~1938*)の調査等を行い、画家ケイの全貌を明らかにする作業が研究の第一歩として必要であった。

研究に着手したごく当初、ケイ作品については、すでにエディンバラにおいて電子化が試みられていたことが本研究に大変有益であった。West Port Books 古書店の店主パート氏によってなされたケイ作品の電子化バージョンは、当初入手不可能であった『ケイ銅版画作品集』に変わってケイの全貌をみることの出来る唯一の手がかりであった。

またケイとほぼ同時代のエディンバラには他にも銅(石)版画による人物像を多く描いた画家たちが存在していた。その代表的存在がウォルター・ギーキーおよびベンジャミン・クロンビーである。ケイ同様これらふたりの存在は一部の研究者あるいは好事家たち以外には今日ほとんど知られていないのが実情である。また当然のことながらその伝記的記述あるいは作品研究なども見るべきものはほとんどない状態である。

ケイ、ギーキーおよびクロンビー三人の画家の画風は当然それぞれに異なるのであるが、いずれもスコットランド啓蒙の時代にエディンバラに生きた様々な人々の肖像を描き残している点で共通しており、三様の画風の比較研究によって描かれた人々の実像、さらに彼らの生きた時代の世相を鮮明なイメージとしてとらえることができるのではないかと、という展望のもとに研究に着手した。

2. 研究の目的

ケイたちの作品は貴重な歴史資料であるにもかかわらず、先にふれたように銅版の廃棄によって再刷が不可能になっていた。従って歴史や美術の専門家以外にはあまり注目されないまま今日に至っていた。そこでまず目指したところは、先にふれた West Port Books 古書店によって電子化されたケイの作品ファイルを元に、ケイ作品の蒐集を行い、我々が実際にケイの作品を鑑賞することができるようにすることであった。

19世紀初頭に出版された『ケイ銅版画作品

集』は今日では古書として若干市場にでる機会があることが判明したので、この作品集の蒐集を行った。また当該『作品集』は多くの場合解体され銅版画だけ個別に市場に出回るようになっていたので、これらの単独の作品群の蒐集も行った。

これらの作品の蒐集によって、ケイの画家としての軌跡の全貌を明らかにして、それによりケイのスコットランド啓蒙の時代における位置づけを研究目的として具体的な調査等を行うに至った。

一方ケイが描いた人物のうちの幾人かに注目して、それらの人物の背景等を精査することにより、ケイの描く人物像の「歴史」を読み解くことももうひとつの研究目的であった。それによって、これまで我々に伝えられている古都エディンバラを中心としたスコットランド啓蒙の知られざる一面を垣間みることが研究の狙いでもあった。

3. 研究の方法

散逸したケイの作品の蒐集はエディンバラの古書市場で行った。また作品蒐集の一方で、スコットランド国立図書館およびエディンバラ市中央図書館エディンバラルームで、ケイに関する数少ない資料の調査を行った。ケイの伝記的事実、『ケイ銅版画作品集』出版の経緯、またケイの描いたエディンバラで何かと話題となった人々の実像などがその調査から明らかになってきた。

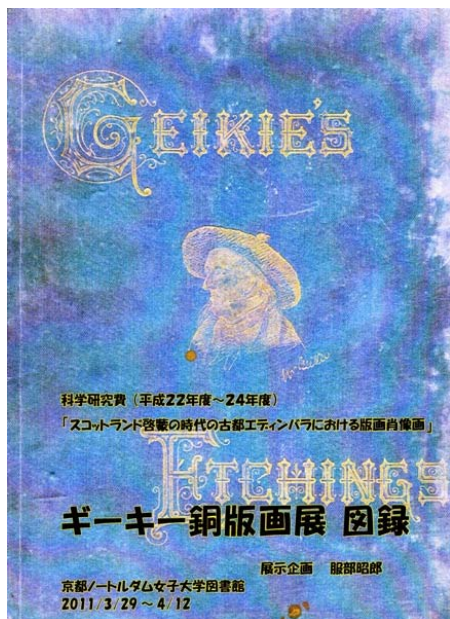
特に今回の研究のひとつの焦点となったケイの描いたディーコン・ブラウディ(後の時代になってスティーヴンソンによって『ジーキル博士とハイド氏』のモデルとなったと言われる)については、両図書館所蔵の18世紀の新聞の精査が不可欠であった。

また、ケイ調査の過程で、ほぼケイと同時代エディンバラで銅版画肖像画を描いていた画家ふたりの研究も併せ行った。ひとりはウォルター・ギーキーそしてもうひとりはベンジャミン・クロンビーである。このふたりの銅版画家もほぼケイと同様、これまであまり研究の対象とされることがなかったので、作品の蒐集がこのふたりの銅版画家の研究にとってもまず最初のステップとなった。

ギーキーおよびクロンビーについても伝記的事実、描いた人々の背景などを先のふたつの図書館で調査した。

4. 研究成果

(1) 研究成果のひとつは、ケイ作品展(平成20年)、クロンビー作品展(平成21年)のふたつの作品展に続き、当該科研費交付期間中に「ギーキー銅版画展」を開催したことである。



『ギークー銅版画展』

期間 2011年3月29日～4月12日

場所 京都ノートルダム女子大学学術情報センター図書館

本展のために制作された図録「ギークー銅版画展」表紙を参考のため上に添付している。

(2) もうひとつの研究成果は 2011 年度末にジョン・ケイについて以下を出版した。

『古都エディンバラ畸人伝 ジョン・ケイが描いたスコットランド啓蒙の時代』
(2012年3月、昭和堂)



参考のため以下に目次を記す。

はじめに

第一章 銅版画家 ジョン・ケイ

第二章 ケイの銅版画

第三章 ケイの生きた古都エディンバラ

第四章 ケイの銅版画によるエディンバラの人々

第五章 古都エディンバラの「ジーキルとハイド」

第六章 ウィリアム・フォーブス像をめぐって

付章 ケイ以降のエディンバラの版画肖像画家たち —ギークーとクロンビー—

本書の目指したところは、目次にその概略を示すように、ケイの作品の背景としてスコットランドの古都エディンバラの歴史と社会に注目することであった。近代化の名のもとに新たな都市となりつつあった 18 世紀後半のエディンバラに生きたケイは、実は古いエディンバラ、つまり近代化に取り残された人々の暮らしをポートレートとして残したのである。

また、たとえスコットランド啓蒙の時代を代表する人物達を描く場合でも、時代の画風を代表するレイバーンやラムジーたちの肖像画とはまったく異質な肖像画を残したのである。その異質性をひと言で言えばそれはケイ独特のカリカチュア精神であった。その意味でも画家ケイは、スコットランド啓蒙というスコットランド史上未曾有の輝かしい時代に対して実ほどことなく斜に構える立ち位置にあった画家であり、ケイ作品の本質もその諷刺精神であったのである。

ケイ、ギークーそしてクロンビー研究の過程でさらに新たな研究対象としてジョン・スレーザーに注目している。彼についても、スコットランド国立図書館 HP 上のアーカイブは存在するものの、人々にはほとんど知られることのないまま長い年月が経過している。特にその主要な作品である『スコットランド名所図絵』(*Theatrum Scotiae*) は少なくとも日本国内では目にする事は少ない。時代的には少し遡ることになるが、ケイたちスコットランド啓蒙の時代の銅版画家たちの作風の源泉とでも言うべきスレーザーへの注目は本研究の将来へつながるひとつの成果と考えている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

- ① 服部昭郎、「ジョン・スレーザー『スコットランド名所図絵』—本学図書館新資料

をめぐって」(「言語文化研究」No. 3、京都ノートルダム女子大学、2013年3月、pp. 26-45)、査読無

〔図書〕(計3件)

① 服部昭郎編集、『比較古都論』(京都ノートルダム女子大学人間文化学科「文化の航跡ブックレット8号」、2013年3月)

本ブックレットの中には、以下の論文2編を含む。

- a. 服部昭郎、「スコットランドの古都エディンバラ古地図-京都ノートルダム女子大学図書館所蔵地図について」(pp. 33-57)
- b. 服部昭郎、「古都エディンバラ異界奇譚」(pp. 138-173)

② 服部昭郎、『古都エディンバラ畸人伝-ジョン・ケイが描いたスコットランド啓蒙の時代』(2012年3月、昭和堂) 213p.

③ 展覧会図録

服部昭郎、『ギーキー銅版画展』

期間 2011年3月29日~4月12日

場所 京都ノートルダム女子大学学術情報センター図書館

6. 研究組織

(1) 研究代表者

服部 昭郎 (HATTORI AKIO)

京都ノートルダム女子大学・人間文化学部・教授

研究者番号：30238026

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：